

第2回例会プログラム

日 時 1993年9月25日(土)

会 場 神戸大学滝川記念学術交流会館

開会の辞 13:00 大阪大学 齊藤俊雄

研究発表 13:15-14:35

1. 「マーガレット・ドラブル小説の文体研究

「汎用的なソフトウェアを用いて」 神戸商科大学 瀬良晴子

司会 大手前女子短期大学 西村道信

2. 「テキスト・データベース管理システム SIGMA (PC版)を

用いた語法研究」 九州工業大学 許斐慧二

司会 九州大学 田島松二

シンポジウム <コーパス言語学—理論と実際> 14:50-16:50

司会 京都外国語大学 赤野一郎

「コーパス言語学の可能性」 講師 椋山女学園大学 深谷輝彦

「コーパス構築の実際—KUFS コーパスの場合」

講師 慶応大学 吉村由佳

「コーパスに見る名詞化の使用状況—ing 構文と派生名詞」

講師 大阪大学院生 梅咲敦子

閉会の辞 16:50 神戸大学 西村秀夫

懇親会 17:15-

会場 神戸大学滝川記念学術交流会館

第2回例会発表のレジュメ

◇ 研究発表

○瀬良晴子

「マーガレット・ドラブル小説の文体研究 ―汎用的なソフトウェアを用いて―」

英国の女性小説家マーガレット・ドラブルの文体を調べるにあたって、市販ソフトである **Grammatik IV** を用いた。本来は英作文用のソフトであるが、スタイル研究にも応用できることを示し、容易にコンピューターを利用できる一例としたい。

○許斐慧二

「テキスト・データベース管理システム **SIGMA**(PC版)を用いた語法研究」

近年コンピュータの発展と普及に伴って多くの磁気化された言語資料、即ち、コンピュータ・コーパスが編集・作成され、それらを利用した言語研究が盛んになって来ている。コンピュータによる分析は大量のデータを短時間に処理することを可能にして、言語事象の全般的な把握を容易にするという利点を有する。本発表では主として **LOB**、**Brown** コーパスに基づいた英語の語法研究を紹介する。データ検索用のプログラムとしてテキスト・データベース管理システム **SIGMA** を使用している。**SIGMA** はどのようなテキスト・データにも対処できるが、語法研究で用いられるテキスト・データはそれに適した形式であった方がよい。ここではまず検索目的に適したデータの内容や形式について述べ、**SIGMA** によるデータ（特に連語）の検索の仕方等について具体的に説明し、これまでに得られた研究成果の一端を示したい。

シンポジウム「コーパス言語学―理論と実際」司会 赤野一郎

○深谷輝彦「コーパス言語学研究の可能性」

本発表では、コーパス言語学という名のもとに行われてきた主要な研究成果を交通整理することを主眼におく。本年5月の **ICAME** 年次大会も考慮にいれながら、実り豊かなコーパス言語学研究の世界を少しでも整理整頓したいと思う。**Leech & Fligelstone (1992)** に代表されるような現状報告がコーパス言語学の到達点を共時的に描くものだとするならば、

本発表はそこに通時的研究鳥瞰図を付け加える試みである。

○吉村由佳「コーパス構築の実際—KUFS コーパスの場合—」

現代英語のコーパス構築の具体例として、京都外国語大学で現在進行中のプロジェクトである KUFS コーパスについて概説する。データ入力・設計・テキスト内容とコーディングといったコーパス構築にまつわる具体的な問題から、実際にそのコーパスをコンピュータ上で運用するためのハードウェア・ソフトウェアを含めたシステム構築の問題を論ずる。また実際に KUFS コーパスをもとにして現代英語の用法を観察し、コーパスとしての有用性を検討する。

○梅咲敦子「コーパスにみる名詞化の使用状況— -ing 構文と派生名詞」

名詞化の中でも、-ing +目的語, -ing + of +目的語, -tion や -ment などの派生名詞 + of + 目的語の形は、通時的には動名詞の発達面から、また意味上はアスペクト的相違の点から注目されているが、現代イギリス英語では、実際にどのような状況でそれらが使用されているのかを LOB, London-Lund の両コーパスで調べる。各テキストカテゴリー別に、統語上、意味上、テキスト形成上の機能面から分析した結果と共に、各コンピュータソフト (WordCruncher, Micro-OCP 等) がそれぞれどの頻度調査に便利であったかについても報告する。